

平成28年度 学校自己評価のまとめ

本年度の戸倉上山田中学校の学校自己評価を、生徒・教職員のアンケート(内部評価)と保護者アンケート(外部評価)をもとにまとめました。まとめをご覧の上、来年度も本校の教育にご理解とご協力をお願いいたします。

I 学校自己評価の目的

学校自己評価は、戸倉上山田中学校グランドデザインに示された学校の教育目標に基づく教育活動や学校運営の状況について自ら評価し、その結果を公表して『よりよい学校づくり』のために行うものです。

これによって、教職員は、教育活動や学校運営の成果と課題を明らかにすることができます。また、保護者や地域の皆様は、学校の目標や教育活動をより深く理解でき、共に学校をつくっていかうとする意識や態度をもつことができます。

本年度の重点目標

- 1 「確かな学力」が身につく学習指導の推進
⇒ 授業改善・自ら行う家庭学習・目と目が合う授業
- 2 責任ある言動や「思いやりの心」の育成
⇒ 自尊感情を高める・生徒支援体制の強化
- 3 「地域とのかかわり」を深める活動の推進
⇒ 地域行事への積極的な参加

II 学校自己評価の方法

1 アンケートによる調査

- (1) 生徒の授業生活評価・教師の授業診断(7月実施)
全校生徒を対象に、授業及び学校生活についてのアンケートを行い、日頃の授業や生活について分析しました。また、教師の自己診断も実施し分析しました。
- (2) 保護者アンケート(12月実施)
本年度の重点目標にかかわる内容についてアンケート用紙に回答してもらい、12月の保護者懇談会で回収しました。回収率は約52%(昨年度約50%)でした。
- (3) 教職員による自己評価(12~1月実施)
本年度の重点目標にかかわる具体的な教育活動について自己評価を行いました。

2 結果のまとめ方

肯定的か否定的かを明らかにするため、保護者アンケートについては選択肢を【ア:十分 イ:だいたい ウ:あまり エ:全く オ:分からない】の5段階にしました(生徒、教職員アンケートは4段階)。

昨年度と比較するために、ア・イを肯定的ととらえて、全体に占めるア・イの割合を肯定率(%)としてグラフ化しました。

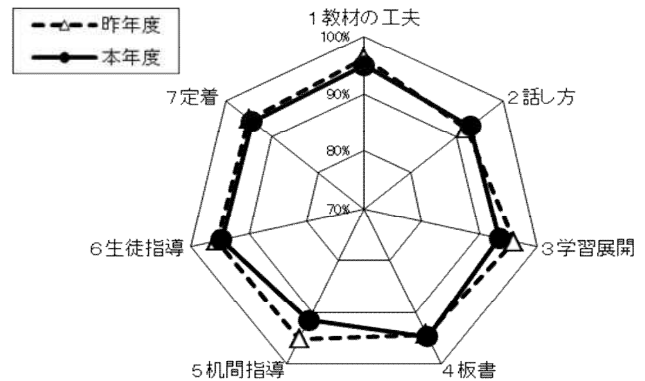
III 結果と考察

1 「確かな学力」が身につく学習指導の推進について

(1) 内部評価(生徒)

7月に生徒を対象に授業に対するアンケートをとりました。内容は、教師の「①教材の工夫 ②授業中の話し方 ③学習展開の工夫 ④板書 ⑤机間個別指導 ⑥生徒指導 ⑦基礎力定着」について、生徒がそれぞれの立場からみて日常の授業評価をしました。

H28 生徒による授業評価

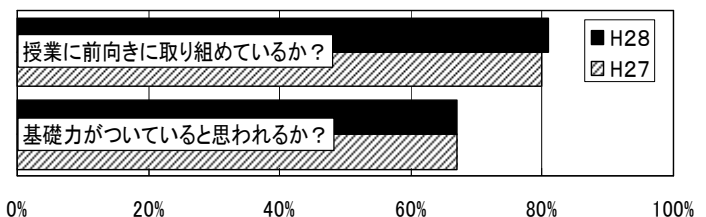


昨年度と比較して微増微減の項目がほとんどで、肯定率は9割を超えてほぼ横ばいという結果が得られました。学力向上テーマに基づく授業改善や全校研究テーマに基づく授業実践、および『つばさタイム』『水SP』(自学の時間)などの本校独自の取り組みが、生徒にも評価されたと考えます。机間巡視については2学期以降の授業で意識的に行うようになってきましたが、「もうすこし細かくやってほしい」「しっかりと注意してほしい」などの意見に答えられるよう、今後も教科会の機能を充実させて授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

(2) 外部評価(保護者)

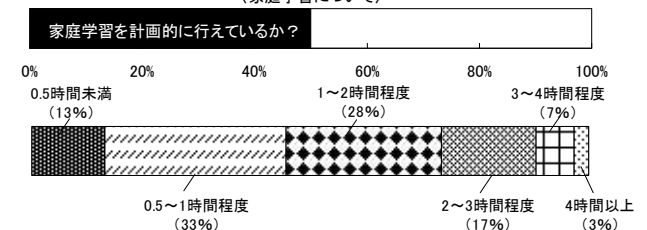
保護者のみなさまからは、『学習に対する前向きな取り組み』について81%の方に、『力のつく授業』について67%の方に(どちらも昨年とほぼ同様)、肯定的に見て頂いています。今年度の授業改善や本校の取り組みを評価頂いていることが、コメントからも読み取れました。

〈授業・学習についてのグラフ〉



一方、『家庭学習を計画的に取り組んでいる』とする保護者のみなさまは昨年度の57%から50%に減退した結果となりました。家庭学習時間の内訳を見ると、2時間以上の生徒が27%と昨年と同様なのに対して1時間未満の生徒が昨年度の41%から46%と増加するといった結果でした。本年度重点事項の一つでしたが、家庭での様子から成果は認められなかったといえそうです。職員全体の意識を更に高め、今後も自主的な学習姿勢を醸成して、家庭学習時間を増やせる(1時間未満の生徒を減らす)ような手立てや家庭との連携策を構築していきたいと思います。

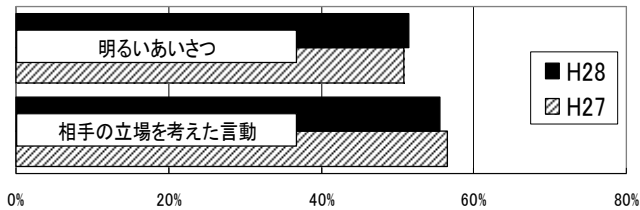
(家庭学習について)



2 責任ある言動や「思いやりの心」の育成について

(1) 内部評価(生徒)

〈学校生活についてのグラフ〉



『相手の立場や状況を考えての行動』がとれたとした生徒が56%と昨年よりも1%微減し、『明るいあいさつ』については、肯定率が52%と昨年より1%微増という結果でした。昨年と大きな変化はないけれども、重点とする項目としては低めの数字ととらえて、課題解決の方策を探りたいと考えます。

(2) 外部評価(保護者)

保護者のみなさまのアンケート結果では、『明るいあいさつ』についての肯定率が62%(昨年度は58%)と改善傾向が見られました。アンケート結果の数値では上昇していますが、コメントには厳しいご意見も少なくなく、更に肯定率が上がるよう考えていきたいと思ひます。

(3) 内部評価(職員)

人権教育や学級経営の場面で、職員が『生徒の良さ、長所を伸ばす声かけができたか』について、肯定率97%でした。相手の気持ちを考えて行動できるように、コミュニケーション能力の育成を大切に考えながら、これからも実践していきたいと考えます。

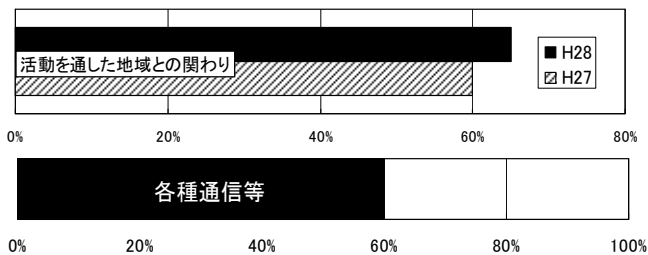
あいさつについては、安定した生活を構築するための指標のひとつと考え、来年度も重点としていく考えです。生徒本人達はもちろん、地域の皆様や保護者の皆様からの肯定率を上げていかれるよう、職員が意識を高めて具体的な指導をしていきたいと思ひます。

3 「地域とのかかわり」を深める活動の推進について

今年度も、地域行事、資源回収、地区の奉仕活動、学校周辺の雪かき、ゴミ拾い登校、職場体験学習等への参加や実施を行えました。

(1) 外部評価(保護者)

〈地域とのかかわりについてのグラフ〉



地域活動への関わりについては、肯定率が昨年度の60%から65%へと上昇しました。また、学校からの情報発信に関しても55%から60%になりました。学校での努力が認められてきていると考えたいですが、「学校・生徒の様子が十分伝えられていない。更なる工夫を」等のご意見にも真摯に答えていきたいと思ひます。

(2) 内部評価(職員)

肯定率は73%で、改善の余地があると思える職員もいます。来年度も、生徒会や部活動・総合的な学習の時間・職場体験学習などを中心に、生徒が主体的に地域にかかわって活動できるように支援していきたいと思ひています。

また、学年・学校だよりやホームページ等を使って、校舎改築の進捗状況等も含めて学校の様子を発信し、地域に開かれた学校づくりをしたいと思ひます。

更に、コミュニティースクールの推進も考えます。

IV 保護者の皆様から

外部評価の際に保護者の皆様から貴重なご意見や励ましの言葉をいただきました。来年度にむけて参考にさせていただきます。

1 学習について

- 毎日楽しく学校へ通っています。担任の先生はじめ各教科の先生方にも、授業が楽しく取り組めるよう努力してもらい、ありがたいと思ひています。
- 子どもが興味を持てる授業内容をお願いします。先生とのコミュニケーションがとれるようお願いします。

2 「思いやりの心」を育てるについて

- 子は親の鏡と言われますので、親である私が見本となるようにやっていきたいと思ひます。
- あいさつをもっとしっかりやった方がいいと思ひます。自分のことが大事だけれど、それ以上に友達を大切にしてほしい。人との関わりをもう少し学ばませんか。

3 地域とのかかわりについて

- 学校側では熱心に指導されていてよいと思ひますが、子ども自身のやる気があまりないように思ひます。
- 通信やホームページなどで努力されているが、自分の子どもを通してしか分からないことが多い。受け手の側に立った工夫が必要だと感じる。

4 プライドファイブについて

- 先輩方の姿をお手本にしなが、下級生が育っていると感じます。大変よい取り組みだと思ひます。
- 日本一の応援や合唱やつばさ祭ですばらしい力が発揮できる生徒達なので、地域の方へのあいさつもしっかり出来るようになれば、もっと素晴らしいと思ひます。

5 部活動について

- 週末に、平日時間外にもかかわらず、熱心にご指導して頂き、先生方に感謝しています。
- 大会の場合は仕方ないが、土日両方の休日練習はどちらかにして頂きたい。休息も必要だと思ひます。

6 その他

- 今の子ども達は「まじめ」ですね。表面上に出ていない心の中の悩みが深くあるように思ひます。大人が気付いてあげられるよう、親も子どもとコミュニケーションをとっていきます。
- 自分が中学生だった頃に比べ、押し並べておとなしいと感じる。おとなしいだけで覇気がない感じも否めない。生活面、部活面、バランスのとれた学校生活ができるよう、引き続きよろしくお祈りします。